

# 『黒漆日輪双龍鳳凰螺鈿軸盆』修理報告

安里成哉<sup>1</sup> 土井菜々子<sup>2</sup>

## I. はじめに

本資料は、一般財団法人沖縄美ら島財団所蔵の『黒漆日輪双龍鳳凰螺鈿軸盆』である。

令和3年4月5日より令和4年3月31日まで沖縄県立博物館・美術館修理修復室内の琉球漆工藝舎にて修復が行われた。修復にあたっては、安里成哉を担当職員とし、土井菜々子を修復責任者兼担当者とした。

## II. 修理報告

### 1. 名称

黒漆日輪双龍鳳凰螺鈿軸盆



### 2. 員数・法量(mm)

寸法:459.0×152.5×高 29.0

### 3. 資料概要

木製、総体黒漆塗りに螺鈿が施される長方形の軸盆。端反の鏝縁と見込の周縁には、二条並列に金属の稜線を廻らす。見込みに日輪双龍鳳凰、鏝には吉祥文様、鏝裏には梅樹が螺鈿で描かれる。

---

<sup>1</sup> 一般財団法人 沖縄美ら島財団 総合研究センター 琉球文化財研究室 琉球文化財研究係 係長

<sup>2</sup> 琉球漆工藝舎 代表

#### 4. 損傷状態

薄葉紙の繊維が、所々にわずかに付着する。資料全体の漆塗膜に小さな亀裂が多く入り、損傷が進む。鏝部や底裏に、塗膜が布着せごと大きく浮いた箇所が見られ、その周辺塗膜の剥離、剥落が見られる。底裏の剥離塗膜は、大きく捲れ上がっている。塗膜剥落箇所は、下地や布着せの布が露出する。特に鏝部は、損傷が著しく進み、動かすたびに貝や塗膜片が落ちるため、大変危険な状態である。鏝と見込みとの接合部に木地亀裂が入り、鏝部がぐらつくほど不安定である。

2重箱の外箱は木地の収縮や反りが進み、棧が外れる。また、内箱も木地の反りが見られる。

#### 5. 修理方針

現在、我が国で行われている指定文化財漆工芸品の保存修理に則り、現状保存修理を原則として行う事とする。修理に際しては、充分に事前調査を行い、傷み等の現状を確認した上で修理工程を決定する。また、写真撮影を伴った修理の記録を取り、修理後と比較できるようにし、修理終了後報告書を作成し提出する。

#### 6. 修理作業

はじめに修理後との比較ができるよう、修理前撮影および現状調査を行った。動かす度に塗膜や螺鈿が剥落するほど危険な状態のため、クリーニングは簡易的なものに留めた。同時に最低限、動かすことのできるよう、剥離した塗膜および螺鈿は、でんぷん糊を含ませた雁皮紙による仮止めを行った(図1)。



図1 雁皮紙による仮止め

仮止め後、最も損傷の激しい鏝部の螺鈿接着を行った。貝の部分の色が変わるのを防ぐため、膠を使用する(図2)。湯煎にかけて柔らかくした膠液を剥離した貝の下に流し込み、クランプや木枠と竹ヒゴを用いた方法で安定させた(図3)。なお、鏝部分は、湾曲した形状に合わせて、木を加工した押さえ用の雁皮紙による仮止め治具を作成した。また、貝を押さえると同時に、貝周辺塗膜の圧着も行った。これにより、固くなった塗膜が水分を含み、柔らかくなる効果も得られる。但し、塗膜に水分を与え過ぎると塗膜剥離が進行する可能性があるため、注意を払いながら行った。

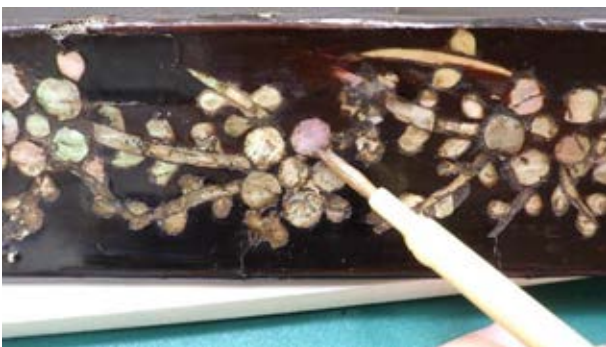


図2 膠含浸



図3 クランプによる固定

同様に、身込み部分の貝押えも順次行なった。貝がある程度安定した後、鏝と見込みとの接合部に、木地構造を補強した。作業は、亀裂部に木地接着用に調合した麦漆を流し込み、木杵を用いて固定した（図 4-1, 4-2）。木地構造の亀裂とつながる塗膜剥離部分の塗膜押さえを順次行い、木地を安定させた。同時に、底裏の塗膜浮きも無理のない範囲で接着を行った。なお、底裏には、わずかな亀裂部の塗膜剥離が複数見られたが、無理な処置は施さない事とした。木地構造が安定した後、鏝部や底裏面の細かな塗膜接着を行った。溶剤で希釈した麦漆を剥離した塗膜の下に流し込み、クランプや木杵と竹ヒゴを用いた方法で安定させた（図 5）。



図 4-1 木地亀裂部 麦漆含浸



図 4-2 木地構造の接着

貝、塗膜、木地構造が安定した後、再度クリーニングを行った（図 6）。基本的には、わずかに湿らせた木綿布で拭き上げるが、油分を含んだ汚れは、エタノールを用いて除去した。



図 5 木杵と竹ヒゴによる固定

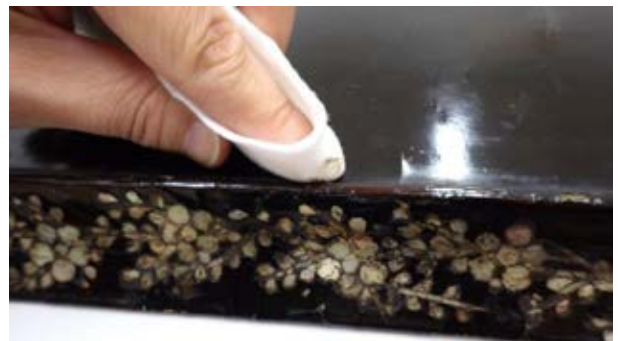


図 6 クリーニング

更なる補強を目的に、螺鈿部分には、再度膠液を充填した。

木地接合部や鏝縁に見られる塗膜および下地欠損部分は、今後の損傷を避けるため刻苧を充填した。刻苧は、粒子の異なるものを使い分け、数回に分けて作業を行った（図 7）。



図 7 刻苧充填



図 8 下地部漆固め

刻苧が十分に固まった後、刻苧充填部分に下地を施した。下地は、砥石や刃物を用いて表面を整え、漆固めを行い、仕上げとした（図8）。

外箱の蓋に付く四方棧は、外れていたため、膠による接着を施した。

最後に、修理前と比較出来るよう、修理後の撮影を行った。

## 7. 修理工程

- (1) 修理前写真撮影・調査
- (2) 簡易クリーニング、仮止め
- (3) 膠による螺鈿および塗膜押え
- (4) 漆による塗膜押え
- (5) クリーニング
- (6) 刻苧充填
- (7) 膠充填
- (8) 下地付け
- (9) 修理後写真撮影
- (10) 報告書作成

## 8. 修理場所

沖縄県立博物館・美術館内修理修復室

## 9. 修理期間

令和3年4月5日～令和4年3月31日

## 10. 所見

- ・塗膜剥離部や漆塗膜の痩せなどから、布着せは、順目で使用し、全面に施されていると思われる。
- ・角部の塗膜剥落部分から木地は差物で、角部は平留めであることが確認できる。

修理前修理後写真



全景 修理前



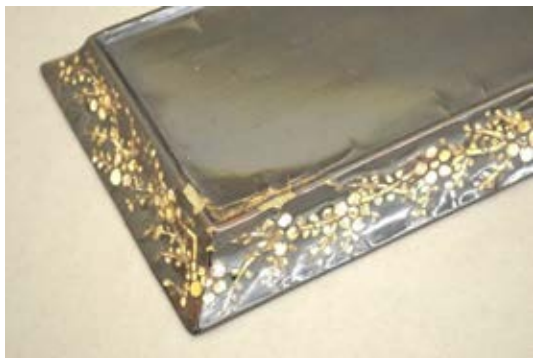
全景 修理後



底裏 修理前



底裏 修理前



底裏 修理前



底裏 修理後



鍔縁損傷部 修理前



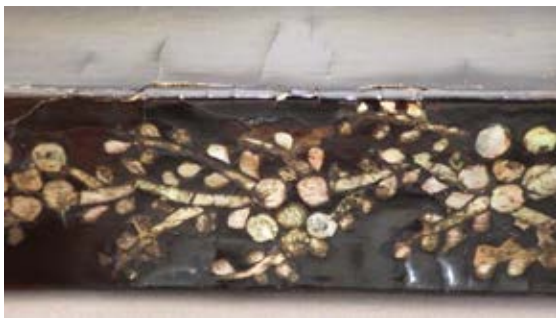
鍔縁損傷部 修理後



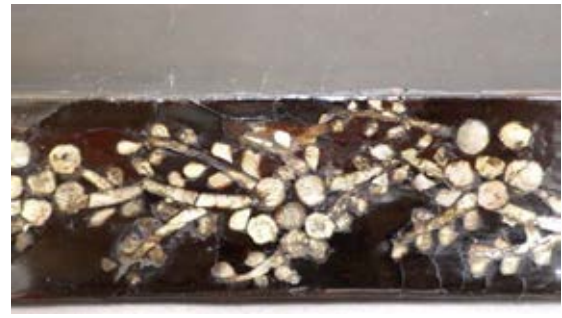
木地亀裂部 修理前



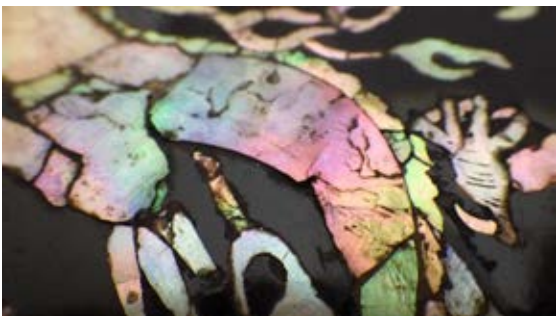
木地亀裂部 修理後



底裏塗膜剥離部 修理前



底裏塗膜剥離部 修理後



螺鈿剥離部 修理前



螺鈿剥離部 修理後



外箱 修理前



外箱 修理後